

第6学年体育科（保健領域）学習指導案

日時：令和6年12月20日（金）

対象：南城市立船越小学校6年1組

計34名

授業者：宮城 裕子（T1）

宮城 克枝（T2）

共同研究者：小波津 俊 城間 盛寛

儀間 盛顕

1 単元名「病気の予防」

2 単元の目標

- （1）病気の起こり方、病原体が主な要因となって起こる病気の予防、生活行動が主な要因となって起こる病気の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域の様々な保健活動の取組について、理解することができるようにする。
- （2）病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- （3）病気の予防について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

3 単元について

（1）教材観

平成29年告示学習指導要領解説体育編では、病気の予防について以下のように述べられている。

病気の予防については、病気の発生要因や予防の方法について理解できるようにする必要がある。また、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について理解できるようにする必要がある。さらに、病気の予防に関する課題を見付け、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現できるようにする必要がある。

本単元では、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為が健康を損なう原因となることを取り上げる。喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為が自分や周りの人にどのような影響を与えるのか考えさせることで、児童の健康に対する意識を高めていきたいと考える。また、これらの行為がもたらす具体的なリスクや影響を理解することで、自己の選択に責任を持ち、健康で安全な生活習慣を築くことの重要性を学ぶことができると考える。

「喫煙の害」「飲酒の害」「薬物乱用の害」から自己の課題を設定し、教科書・書籍・インターネットを活用しながら情報を収集し、スライドにまとめ、グループや学級全体で共有する。自身が設定した課題のもと、自ら進んで調べ学習を行うことにより、理解がさらに深まり、飲酒、喫煙、薬物乱用の問題に対して、適切な判断ができるであろうと考える。

（2）児童観

「病気の予防」の前半部分を9月に実施した。その時は、児童の様子を聞き出したり、教科書の知識を抑えたりするなど、指導が一方的であった。そのため、児童の興味関心が低く、意欲的に学習に取り組む

児童が少なかった。

事前のアンケート調査として「保健の学習は大切だ。」の質問に対して「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた児童は、87%と保健の学習の大切さを理解している。それに対して「保健の学習は、面白い。」の質問では「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた児童は、36%となった。このことから、保健の学習の大切さは理解しているが、保健の授業に対して、面白さを感じていない児童が一定数存在することが分かる。また、「保健で学習したことから、自分の生活や身の回りの環境について、ふりかえったり考えたりしていますか。」の質問に対して「当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えた児童は42%、「保健で学習したことを、自分の生活に生かしていますか。」の質問に対して「当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えた児童は、38%となった。このことから保健の学習で学んだことが児童の生活に直接的に結びついていないことがわかる。学習した知識を実際の生活に応用することに課題があることが考えられる。習得した知識を実生活に繋げることができるように、自己が設定した課題について調べるだけで終わるのではなく、調べたことを家族や友だち、そして、自分のこれからの生活にどのように生かすことができるのか考える場面を設定したい。

(3) 指導にあたって

① 自己決定の場の設定

これまで運動領域において、用具やルールを選択、練習場所や練習内容の選択、作戦の選択、表現方法の選択など、児童が自らの判断で選択する機会を設定してきた。その結果、児童の学習意欲が高まり、進んで運動及び課題解決の活動に取り組む姿が見られた。保健領域においても自己決定の場を設定し、健康に関する課題に進んで取り組み、資質・能力の3つの柱を育みたいと考える。そこで、本単元では「喫煙、飲酒、薬物の乱用などの行為における害や体への影響」について、より詳しく調べたい内容を児童が選択し、調べる活動を展開していく。教科書、書籍、インターネット、お家の方への質問など、課題解決に向けて、どのように情報を集めるのかについても児童に選択させたい。集めた情報は、ロイロノートを活用して、発表用のスライドを作成する。その際、「発表内容をきちんと理解しているか（コピー＆ペーストになっていないか）」「同世代にも伝わる言葉に変換しているか」「グラフや資料を使用する場合は内容を説明できるか」等の視点で、作成したスライドを見直し、修正する活動を設定する。

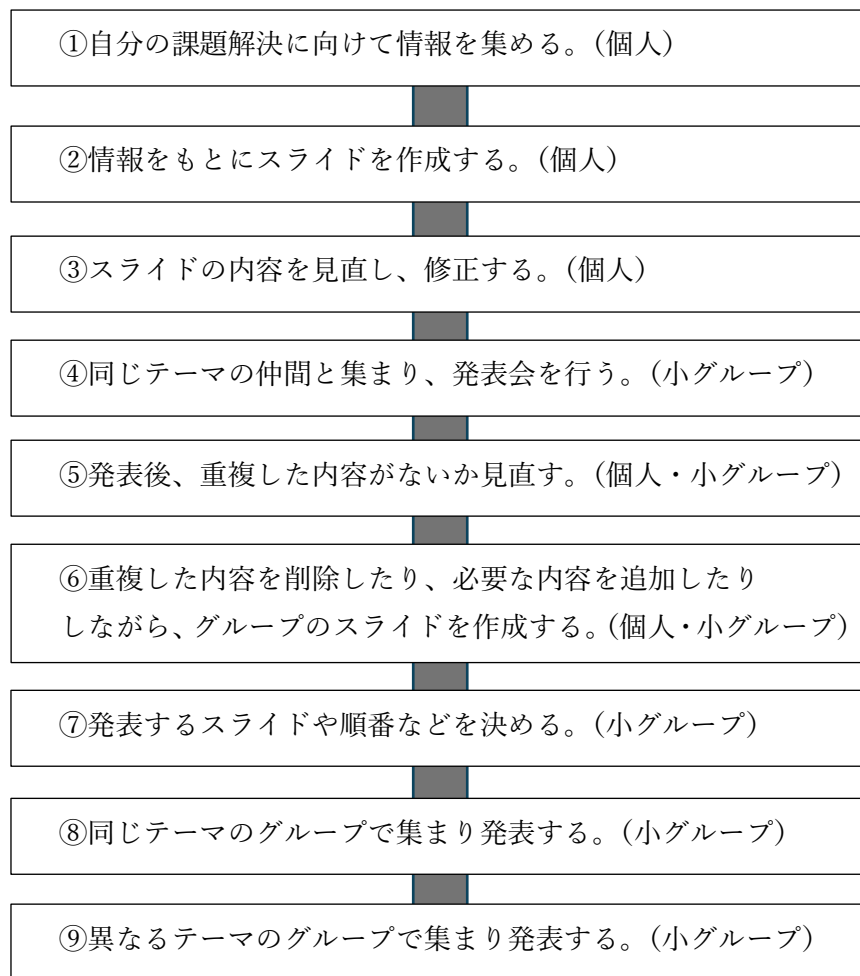
児童が調査する内容については「自分の体への影響・他者への影響・それを断る方法」や「周囲への影響・他者への影響・サポート施設」など、ある程度の範囲を設定し、調べる内容が広がりすぎないように配慮する。もし児童が設定範囲外の内容を調べたいと希望した場合は「ステップアップスライド」と称し、休み時間や家庭などで作成することを伝え、その意欲を称賛したい。

② 対話的な活動の工夫

他者との対話を通して、自身の考えを広げたり深めたりすることをねらいとし、体育の学習及び他教科の学習の中でも積極的に対話活動を設定している。本単元では、飲酒の害・喫煙の害・薬物乱用の害に関する情報を児童が収集・整理し、発表するという学習活動が設定されている。しかし、この方法では、児童同士の交流が不足し、調べた内容をスライドにまとめるだけが目的になる恐れがある。そこで、本単元では、次のサイクルで調べ活動を展開していく。まず、児童が個別に情報を集め、初期の発表用スライドを作成する。その後、小グループでスライドの内容を共有し合い、相互に意見を交換する。このプロセスを通じて、他者の視点を取り入れ、自分の考えを補完し、深めることができると思う。

次に、グループ内での対話を通じて、情報の整理や修正を行い、最終的な発表スライドを作成する。

最後に、クラス全体で発表会を実施し、各グループのスライドを披露する。ICT機器を使った調べ学習の中でも他者との関わり合いを大切にしたい。



4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①病気の起こり方について理解したことを発言したり、書いたりしている。 ②病原体が主な原因となって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ③生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について理解したことを発言したり、書いたりしている。 ④喫煙や飲酒、薬物乱用が体に及ぼす影響について理解したことを発言したり、書いたりしている。 ⑤地域の様々な保健活動の取り組みについて、理解したことを発言したり、書いたりしている。	①病気の予防について調べたことをもとに、課題解決の方法を見つけたり、自分の生活と比べ関係を見つけたりし、それらを説明している。 ②健康影響が大きい喫煙や飲酒、薬物を防止する方法を学習カードに書いたり、友達に説明したりしている。	① 病気の予防について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や、教科書や資料を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知・技	思判表	主体的
1	病気の起こり方 ・ 病気は、病原体、体の抵抗力、生活のしかた、環境などが関わり合って起こることを理解できる。	①		
2	感染症の予防及び生活習慣の予防 ・ 感染症を予防するためには、病原体を体の中に入れないことが必要であることを理解できる。 ・ 生活習慣病を予防するには、適切な運動、栄養のバランスの良い食事、十分な休養・睡眠など、健康に良い生活習慣を身につけることが大切だと理解できる。 ・ むし歯や歯周病を予防するには、食後や寝る前に歯をみがいて、口の中をいつも清潔にしておくことが大切であることを理解できる。	②③		
3	・ より深く学びたい内容を選択し、学習ツールを活用して本やインターネットの情報をもとにして調べ、まとめることができる。	②③		
4	・ より深く学びたい内容を選択し、学習ツールを活用して本やインターネットの情報をもとにして調べ、まとめることができる。		①	
5	・ 調べた情報をお互いに共有し、自身の生活に関連して考えることができる。		①	①
6	喫煙や飲酒、薬物乱用などの害 ・ 喫煙の害には、すぐに体に現れる害と長い間喫煙を続けることによって現れる害があり、受動喫煙によってたばこを吸わない人も悪い影響を受けることを理解できる。 ・ 飲酒は、注意力や判断力が鈍り、呼吸や胸が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることを理解できる。 ・ 薬物には依存性があり、乱用を続けると心身の健康に害をあたえることを理解できる。	④⑤		
7	・ より深く学びたい内容を選択し、学習ツールを活用して本やインターネット、インタビュー等の情報をもとにして調べ、まとめることができる。	④⑤		
8	・ より深く学びたい内容を選択し、学習ツールを活用して本やインターネット、インタビュー等の情報をもとにして調べ、まとめることができる。		②	
9	・ より深く学びたい内容を選択し、学習ツールを活用して本やインターネット、インタビュー等の情報をもとにして調べ、まとめることができる。		②	①
10 本時	・ 集めた情報をもとに作成した資料（プレゼン）をお互いに共有し、自身の生活に関連して考えることができる。		②	①

7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・調べた情報をお互いに共有し、自身の生活に関連して考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・健康への影響が大きい喫煙や飲酒や薬物を防止する方法を学習カードに書いたり、友達に説明したりしている。(思考・判断・表現)

(3) 本時の展開(10/10)

過程	学習活動・内容	○指導上の留意点	評価
導入 5分	1 これまでの学びを想起する。 2 めあてを確認する。 お互いの発表を聞いて、自分のこれからの生活を考えよう。 3 学習の流れを知る。	○単元の内容を大まかに想起させる。 ○発表し合う良さについて確認する。 ○発表を聞くときは新たな気づきや共通点などに意識して聞くように促す。	
展開 25分	4 プレゼン発表会を行う。 ①同じテーマのグループで集まり発表する。 ②異なるテーマで集まり発表する。 ③それぞれのテーマの代表グループが発表する。 5 養護教諭からの補足を聞く。	○同じテーマの発表を聞き、新たな気づきがあったか尋ねる。 ○共通点や異なる点が無かったか尋ねる。 ○①の活動の際に、各グループの様子を見ながら、より身近な問題として捉えた内容になっているグループを指名する。	【思】 健康影響が大きい喫煙や飲酒、薬物を防止する方法を学習カードに書いたり、友達に説明したりしている。(学習ツール、発表)
終末 10分	6 今日の学習をふりかえり、今後の生活と関連させて考えよう。	○分かったことだけではなく、今後健康でいられるために、どうしたらよいのか具体的に記述するよう促す。	

参考文献・資料

文部科学省 2018 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』 東洋館出版社

公益財団法人 日本学校保健会 『喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 令和元年度改訂』

公益財団法人 日本学校保健会 『保健教育の指導と評価』 令和4年度版

公益財団法人 日本学校保健会 『保健教育推進委員会報告書 第4回全国調査の結果』 令和4年3月

高田彬成・森良一・細越淳二 『確かな学習状況を見取る 小学校体育の評価規準づくり』 大修館書店